

パワーは  
日本から世界へ、  
そして未来へ。

# J-POWER レポート

第60期中間株主通信  
平成23年4月1日～平成23年9月30日

60<sup>th</sup>  
Interim



目次

株主の皆様へ	01
平成23年度上期ハイライト	02
大間原子力発電所レポート(第6回)	03
誌上体験レポート 御母衣発電所	05
コミュニケーションひろば	07
連結財務諸表(要旨)	09
会社概要・株式基本情報	10

**J-POWER**  
電源開発

証券コード 9513

## 企業理念

**使命:**わたしたちは人々の求める  
エネルギーを不断に提供し、  
日本と世界の持続可能な  
発展に貢献する

**信条:** 誠実と誇りを、  
すべての企業活動の原点とする

環境との調和をはかり、  
地域の信頼に生きる

利益を成長の源泉とし、  
その成果を社会と共に分かち合う

自らをつねに磨き、  
知恵と技術のさきがけとなる

豊かな個性と情熱をひとつにし、  
明日に挑戦する

## 株主の皆様へ

東日本大震災により被害を受けられた皆様に心よりお見舞い申し上げます。

株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。第60期中間株主通信をお届けするにあたり、経営を代表してご挨拶申し上げます。

当第2四半期(累計)は、火力発電所の順調な稼働により販売電力量が増加したことなどにより増収となりました。一方、費用については、火力の高稼働に伴う燃料費の増加などがありました。結果として、前年同期に比べ経常利益ベースで減益となりました。(詳細は2ページおよび9ページをご覧ください)

わが国経済を支える電力供給の見通しは、現在きわめて不透明かつ流動的な状況となっています。震災により供給力不足に陥った東日本地域はもとより、西日本地域においても、原子力発電所の稼働停止により需給バランスが逼迫しています。政府においては、当面の電力供給安定策とあわせて、中長期的な電源構成の見直しと供給力確保に向けて様々な検討が行われています。

こうした状況のもと、J-POWERグループは、水力発電所や石炭火力発電所、基幹送電線など、全国に所有する電力設備の機能を十二分に発揮し、卸電気事業者としての責務を果たしてまいります。その上で、日本の中長期的な電力供給力の確保に向けた設備増強の



一環として、大間原子力計画、竹原火力リプレース(更新)計画などの新規案件について、一步一步着実に進めてまいり所存です。

このたびの震災により示された電力インフラの重要性と、原子力事故の重大さをしっかりと受け止め、当社グループは、ますます強く「持続可能性」を意識しつつ、自らの経営基盤をより強固なものにして、使命の遂行にチャレンジしてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますよう心からお願い申し上げます。

代表取締役社長 **北村雅良**

# 平成23年度上期ハイライト

## 上期ハイライト

### 平成23年6月

#### タイ国でのIPP事業に関する電力販売契約を一部変更

タイ国サメッタイ地点における当社IPP事業(発電事業)について、建設予定地をウタイ地点に変更のうえ引き続き推進することとし、現地事業会社を通じて、電力販売契約の一部を改定する契約をタイ国電力公社との間で締結しました。

### 平成23年8月

#### ベトナム国南部揚水発電計画の事業実施可能性調査に関するコンサルタント業務を開始

当社は、経済産業省資源エネルギー庁より「平成23年度インフラ・システム輸出促進調査等事業」に関するコンサルタント業務を受託し、ベトナム国において電力系統の平準化を図るための「揚水発電」の事業可能性調査を実施することとなりました。

### 平成23年8月

#### 北九州市沖合で洋上風車の実証研究開始

当社は、行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)との共同研究事業として、福岡県北九州市の沖合にて、洋上風力発電システム技術の確立に向けた実証研究を実施します。



洋上風力発電設備(左)と洋上風況観測設備(右)のイメージ図

### 平成23年10月

#### 豪州モールズ・クリーク炭鉱の権益取得

当社は、Aston Resources Limited(以下「Aston社」)との間で、Aston社が豪州で開発中のモールズ・クリーク炭鉱の権益の10%を取得し、同時に同炭鉱から石炭火力発電向けの一般炭の長期購入契約を締結することで合意しました。

### 平成23年10月

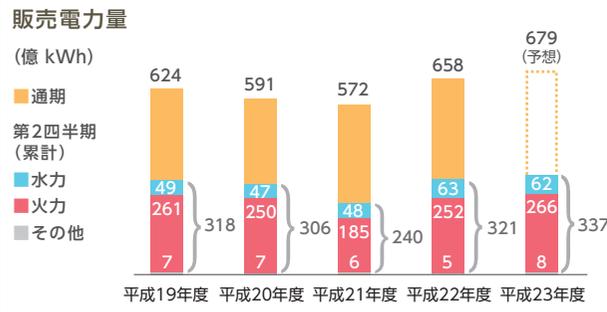
#### インドネシア国における新規石炭火力IPP案件の長期売電契約を締結

当社、伊藤忠商事株式会社およびインドネシア国のPT ADARO POWER社の3社が出資する事業会社PT. BHIMASENA POWER INDONESIAは、インドネシア国有電力会社(以下「PLN」との間で、中部ジャワ州に合計出力200万kWの石炭火力発電所を設立し、電力を25年間にわたってPLNに供給する長期売電契約を締結しました。



現地調印式の様子

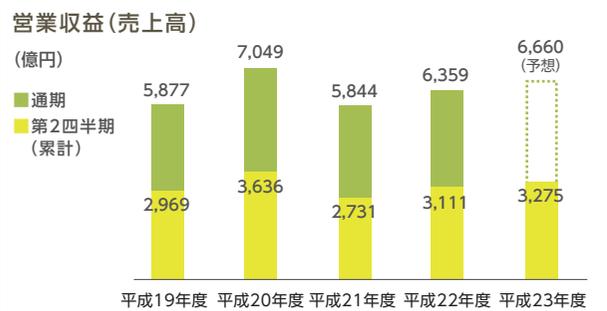
## 財務ハイライト(連結)



### 販売電力量

UP 4.9%

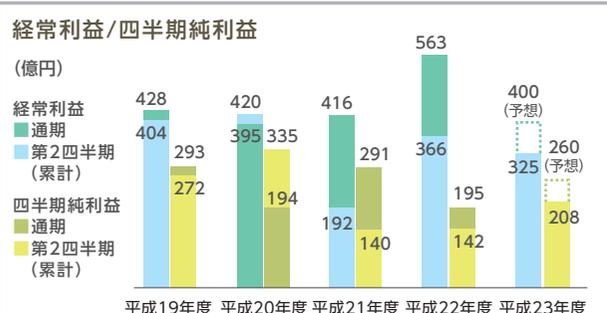
水力は前年同期を上回る豊水(出水率108%→118%)となったものの、豪雨・台風の影響で一部発電所が停止したことなどからほぼ横ばいとなりました。火力は発電所の順調な稼働により5.5%増加しました。その他電気事業を加えた電気事業全体の販売電力量は、前年同期に対し4.9%増加の337億kWhとなりました。



### 営業収益(売上高)

UP 5.3%

販売電力量の増減などにより、水力は減収、火力およびその他電気事業は増収となり、電気事業全体としては増収となりました。これにその他事業収益を加えた営業収益(売上高)は、前年同期に対し5.3%増加の3,275億円となりました。



### 経常利益

DOWN 11.2%

営業収益(売上高)の増加の一方で、火力の販売電力量の増加に伴う燃料費の増加などのため営業費用が増加しました。結果として、経常利益は前年同期に対し11.2%減少の325億円となりました。

### 平成23年度通期予想

	前期比
販売電力量	679億kWh 3.2%増
営業収益(売上高)	6,660億円 4.7%増
経常利益	400億円 29.0%減
当期純利益	260億円 32.8%増

### 四半期純利益

UP 46.8%

前年同期に、タイIPP事業(サメッタイ地区)の地点変更に伴い計上した特別損失などが解消したことから、法人税等を差し引いた四半期純利益は、前年同期に対し46.8%増加の208億円となりました。



平成23年10月撮影

当社が大間原子力発電所の建設を進めている青森県下北郡大間町では、東北地方太平洋沖地震により、震度4の揺れを観測し、大間港では最大0.9mの津波がありました。建設現場においては、今回の地震・津波による被害はありませんでしたが、地震により停電が発生したこと、工事用電源や重機などの車両燃料、資機材輸送等の制約や震災後の被災地支援が優先されたことなどにより、環境保全や設備維持などのために必要な保安工事を除き、本体工事については3月11日以降休止しました。

今後は、以下に示す安全強化対策等の検討を進め、国の方針等も踏まえたうえで、必要な対策について常に適切に反映しながら、地域のご理解を賜り、皆様から信頼される安全な発電所作りに向け全社をあげて取り組むこととしています。

## 大間原子力発電所における安全強化対策等

### 1. 津波に対する対策

当社は、大間原子力発電所における津波について、敷地に影響を及ぼしたと考えられる既往津波および今後発生することが想定される津波を数値シミュレーションにより評価しています。具体的には日本海東縁部、日本海溝沿い、チリ沖で発生する地震を設定し、このうち最高水位を与える日本海東縁部(マグニチュード7.85)の地震による最大水位上昇量約3.8mに朔望平均満潮位(0.6m)を加えたT.P.+4.4m<sup>(\*)</sup>を大間における津波最高水位としています。

これに対し、発電所の原子炉建屋など主な建屋の敷地高さはT.P.+12mとなっており、十分な余裕がありますが、今回の東北地方太平洋沖地震による津波は福島第一原子力発電所で14~15mの痕跡があったこと

\*T.P.とは、東京湾平均海面からの高さのこと

から、大間原子力発電所においても15m程度の津波を考慮することとし、敷地高さ(+12m)にさらに3m程度の防潮壁を設置する計画としています。

また、主建屋への海水の浸水対策として、主建屋の外扉等を防水構造化し、安全上特に重要な機器を設置する部屋に対しては、水密化の向上を図ります。

### 2. 電源確保

外部電源としては500kV送電線と66kV送電線があります。また、非常用ディーゼル発電機はT.P.+12mの原子炉建屋内(地上1階)に3台設置する計画としています。

これらの電源が使用できない状況においても、原子炉および使用済燃料貯蔵プールの冷却を担うポンプ等の電源が確保できるよう、津波の影響を受けるおそれのな

# 大間原子力発電所の安全強化対策等の概要図



い、T.P. + 20m以上の高台に非常用発電機を設置します。

また、常設の電源盤やケーブルが津波等により損傷した場合にも機動的な対応ができるよう電源車を配備します。

### 3.最終的な除熱機能の確保

常設の海水ポンプが使用できない状況においても、原子炉および使用済燃料貯蔵プールを冷却するための機能を確保するため、代替の注水手段として可搬式動力ポンプの配備および消防自動車の追加配備を行うとともに、それら水源の信頼性を向上するため、水タンクの補強を行います。

また、海水ポンプはタービン建屋内に設置するため、津波の影響を受けるおそれはないものと思われませんが、万一の設備の被水等に迅速に対応するため、海水ポンプの電動機等を予備品として確保します。

### 4.シビアアクシデントへの対応に関する措置

万が一シビアアクシデントが発生した場合でも迅速に対応するため、以下の措置を行います。

- 非常用発電機等から中央制御室の作業環境の確保に必要な電力供給を行えるようにします。
- 緊急時における発電所構内通信手段を確保するため、有線電話、トランシーバー、衛星携帯電話を配備します。
- 事故後の作業を円滑に進めるため、高線量対応防護服等の資機材の確保および放射線管理のための体制の整備を行います。
- 水素爆発防止対策として原子炉建屋内の水素を逃す装置および水素の検知器を設置します。
- 津波来襲後に発電所構内に散乱する漂着物やがれきを迅速に撤去するため、ホイールローダー等の重機の配備を行います。

### 5.安全裕度(耐力)評価(ストレステスト)

大間原子力発電所については、原子炉の起動までに安全裕度の評価を実施します。

これら安全強化対策等の最新情報については、J-POWER ホームページの原子力のページに掲載しています。

安全強化対策等の対応

URL <http://www.jpowers.co.jp/bs/field/gensiryoku/index.html>

### 計画の概要

建設地点	青森県下北郡大間町
出力	138.3万kW
原子炉型式	改良型沸騰水型軽水炉 (ABWR)
燃料	濃縮ウランおよびウラン・プルトニウム混合酸化物 (MOX)

工事進捗状況 (平成23年3月現在)

総合進捗率 **37.6%**



## 誌上体験レポート

み ぼ ろ

# 御母衣発電所

(岐阜県大野郡白川村)

平成23年9月27日・28日

当社の事業をより身近に知っていただくため、施設見学会を実施しています。

今回は、土と岩で築いた日本有数のロックフィルダムを擁する水力発電所、御母衣発電所の見学会を行いました。その模様をご紹介します。

### 当日スケジュール

9:00	→ 11:00	→ 13:00	→ 15:25	→ 18:30
JR名古屋駅 集合	荘川桜	御母衣発電所 見学	白川郷城山 展望台	JR名古屋駅 解散



発電機

## 自然と文化に配慮しながら 電力供給の使命を果たした御母衣発電所

今回の施設見学会も、大変多くのご応募がありました。見学会を行った両日とも、天候に恵まれ、各40名近い株主およびご家族などの皆様にご参加いただきました。

JR名古屋駅を9時にバスで出発。一路、御母衣発電所のある岐阜の山間部を目指します。車内では御母衣ダム建設当時の貴重な映像を上映。これから見学するダムに思いを馳せながら映像をご覧くださいました。そして名古屋から約2時間、第一の目的地、荘川桜に到着しました。

御母衣湖畔には高さ20mあまりの2本の巨木が立っています。ダム建設に伴い水没してしまう村から「この桜だけはなんとか残したい」という電源開発株式会社初代総裁、高碓達之助の強い思いにより、この地に大移植が行われたものです。花が咲く時期ではないものの、見事な巨木の大きさに参加者の皆様は圧倒されている様子でした。



ダムサイドパークから見る御母衣ダム

荘川桜見学後、バスで10分ほどの場所にある平瀬温泉の旅館にて昼食をとり、いよいよ御母衣発電所へ。まずダムの目の前にあるダムサイドパークの展示館に。

御母衣発電所の仕組みについて展示を見ながら学びました。また、展示館内にある御母衣シアターにて荘川桜移植のドキュメンタリー映画を鑑賞しました。



旧制御室

その後は、再びバスに乗り、地下に下るトンネルを通過して、御母衣発電所の心臓部ともいえる地下の発電機室へ。ひんやりとした地下空間で2機の発電機が間近に動いているのを見学。より多くの電力を発電できるように、落差を活かして取水口から放水口まで地下水路に流す地下発電方式を採用するなど、自然を活かす工夫を凝らしていることに参加者の皆様の多くが興味を抱いているようでした。この発電機により21.5万kWの電力を生み出しており、昭和36年の運転開始以降、半世紀にわたり安定的な電力供給を行ってきました。

発電機の奥にある旧制御室もあわせて見学。普段、見ることのできない施設に、参加者の皆様からは歓声が上がりました。現在は遠隔操作のため使用していません。

んが、レトロなレバーやボタンが並ぶ光景に懐かしさを覚えた方も多いのではないのでしょうか。

最後に、体積795m<sup>3</sup>、高さ131m、土と岩で作られたロックフィルダムの見学へ。まるでピラミッドのような外観のダム堤体の頂上にある歩道を歩きました。御母衣ダムは地質の問題から、コンクリート式での建設が困難だったため、自然の土と岩で作るロックフィルダムを建設することになったのです。



ダム湖

15時過ぎに発電所見学を終えると、バスで約25分、世界遺産の白川郷が見える展望台に立ち寄った後、再び名古屋へと戻りました。盛りだくさんな内容で、参加者の皆様の多くに満足していただけたようです。

実際に発電所を株主様にご覧いただくことで、当社事業を身近に感じていただけたように思います。今後も株主様の企業理解を深めていただくためにも、施設見学会を開催していく予定としています。

## 荘川桜

樹齢450年あまり。高さ約20m、幹周り約6mもの巨木が2本。御母衣ダムによってせき止められた湖のほとりに、堂々と咲き誇っているのが、ダム建設に伴い水没した村から移植された荘川桜です。専門家の多くが「不可能」と評した移植でしたが、今も花をつけ、変わらぬ美しい姿を見せています。湖底に沈んだ村に住んでいた人たちが集まり、故郷を思い起こすだけでなく、数奇な運命を歩んだ見事な桜を見ようと、多くの観光客が訪れています。



## MIBOROダムサイドパーク

ロックフィルダムを正面から眺望できる場所に立つ施設で、御母衣ダム建設の歴史や発電所の仕組みなどをわかりやすく紹介しています。150インチスクリーンの「御母衣シアター」では、御母衣ダム建設と荘川桜移植の心温まるドキュメンタリー映画「桜守の詩」（約18分）を上映。また、魚型の潜水艦「サブマリンフィッシュ」に乗って体験する映像アトラクション「発電アドベンチャー」など、

楽しく学べる施設もあります。



営業時間：9:00～16:00  
定休日：水曜日  
電話番号：05769-5-2012



岐阜県大野郡白川村

御母衣発電所から車で約25分!

## 世界遺産・白川郷

施設見学会を終えた後、御母衣発電所から近い世界遺産・白川郷の町並みが一望できる白川郷城山展望台にも立ち寄りました。自然の山々に囲まれた地に集う合掌造りの集落は、日本の原風景ともいべき場所です。



# コミュニケーションひろば

## 株主様アンケート調査結果のご報告

平成23年6月に実施いたしました株主様アンケート調査に対し、8,026名(20.86%)の株主様からご回答をいただきました。多岐にわたる質問項目について、多くの皆様からご回答をいただきましたことに、改めて厚くお礼申し上げます。

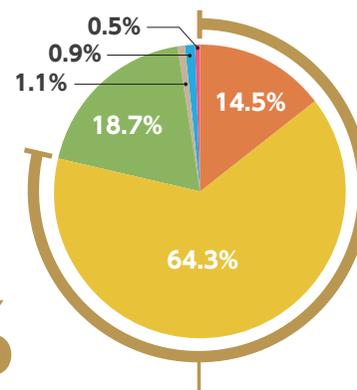
ここではアンケート調査結果(抜粋)をご報告するとともに、代表的なご意見・ご要望にご回答いたします。今後も皆様との対話を重視し、いただきました貴重なご意見をもとにIR活動(投資家向け広報活動)のさらなる充実を図ってまいります。

### アンケート調査結果(抜粋)

#### 株式保有方針について

買い増し・長期保有の方針を持つ株主様が8割弱と多数を占めています。今後とも株主様のご期待に応え、多くの皆様に長期にわたり株式を保有していただけるよう努めてまいります。

- 買い増し
- 長期保有
- 未定
- 売却予定
- 一部売却済み
- 全て売却済み



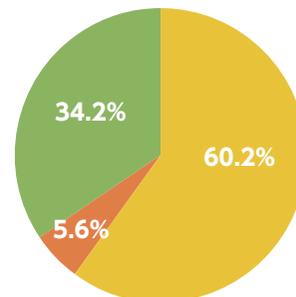
8割弱が買い増し・長期保有

78.8%

#### 議決権行使について

約1/3の株主の皆様が不行使となっています。その理由として「決議結果の大勢に影響ない」「会社議案に全て賛成だから」などがあがりましたが、株主の皆様のご意見を伺う貴重な機会ですので、ぜひ行使をお願いいたします。

- 全ての議案に賛成行使
- 一部または全ての議案に反対行使
- 行使していない



#### J-POWERに期待する取り組み(上位6位)

「発電設備規模の増強」「技術革新と新たなプロジェクトの創造」などへの期待が高く、電力の安定供給に向けた当社の取り組みや再生可能エネルギーなどを推進するという経営の方向性を多くの皆様にご支持いただいていることがわかります。皆様のご期待にお応えするべく、取り組みを続けてまいります。

#### 株主通信について

「J-POWERグループ 経営の方向性と当面の取り組み方針」「電力安定供給に貢献するJ-POWER」「大間原子力発電所レポート」に高い関心を寄せていただいていることがわかります。電力の安定供給への貢献という当社の使命に多くのご期待をいただいている結果だと考えております。

発電設備規模の増強

33.5%

技術革新と新たなプロジェクトの創造

26.3%

安定配当を重視した配当政策

11.1%

グローバルな事業展開

5.9%

発電をコアとしたビジネスの多様化

4.8%

環境保全活動

4.4%

J-POWERグループ 経営の方向性と当面の取り組み方針

57.6%

電力安定供給に貢献する J-POWER

49.4%

大間原子力発電所レポート

48.3%

株主の皆様へ

24.5%

平成22年度ハイライト

18.1%

地域とともに

10.0%

## ご意見・ご要望へのご回答

### 大間原子力発電所の建設計画は どうなるのでしょうか

大間原子力発電所については様々なご意見をいただいております。3月11日以降、環境保全や設備維持などのために必要な工事を除き、本体工事については休止しております。このたび、本誌の「大間原子力発電所レポート」で同発電所における安全強化対策についてご報告しております。今後は、国の方針等も踏まえ、必要な対策について常に適切に対応しながら、全社をあげて安全強化対策に取り組むこととしております。

### 新しくなった株主通信は、 字が大きく写真も多くて、カラフルで、 読みやすかったです

当社では株主通信が株主の皆様との大切なコミュニケーションの機会であると考え、会社情報をわかりやすくお伝えするよう前回の株主通信からリニューアルいたしました。引き続き、多くの皆様に当社の取り組みをご理解いただくため改善を図ってまいります。

## 社会貢献活動事例報告

### 切手カウントボランティア

当社では3年ほど前から、特定非営利法人「ハンガー・フリー・ワールド(HFW)」に協力する形で「切手カウントボランティア」活動を行っています。この活動は、HFWに全国から寄付として送られてくる未使用の切手を、金額をそろえてシートに貼る作業を行うものです。これらの切手は、未使用のはがきを切手に交換する際の手数料や、HFWに送られてくる寄付の郵便物の送料などに使われます。

HFWに送られてくる切手の量は膨大なため、当社およびグループ会社の社員もボランティアとして参加し、毎年2月から6月までの間に月一度、J-POWER本店で実施しています。今年7月26日に、グループ会社としては初めてとなる株式会社ジェイペック本店の会議室にて実施しました。



# 連結財務諸表(要旨)

## 四半期連結損益計算書

(単位：百万円)

	当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)	前第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)
営業収益	327,527	311,101
営業費用	289,494	266,066
営業利益	38,033	45,034
営業外収益	7,827	5,003
営業外費用	13,334	13,419
四半期経常収益合計	335,355	316,104
四半期経常費用合計	302,828	279,486
経常利益	32,526	36,618
渴水準備金引当又は取崩し	110	92
特別利益	—	1,635
特別損失	—	9,666
税金等調整前四半期純利益	32,416	28,495
法人税、住民税及び事業税	10,570	13,293
法人税等調整額	966	1,388
法人税等合計	11,536	14,682
少数株主損益調整前四半期純利益	20,879	13,812
少数株主損失(△)	△20	△427
四半期純利益	20,899	14,240

## 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)	前第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	37,397	52,908
投資活動によるキャッシュ・フロー	△60,232	△40,599
財務活動によるキャッシュ・フロー	15,169	△12,104
現金及び現金同等物に係る換算差額	104	△284
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△7,560	△79
現金及び現金同等物の期首残高	38,002	40,329
現金及び現金同等物の四半期末残高	30,442	40,249

## 四半期連結貸借対照表

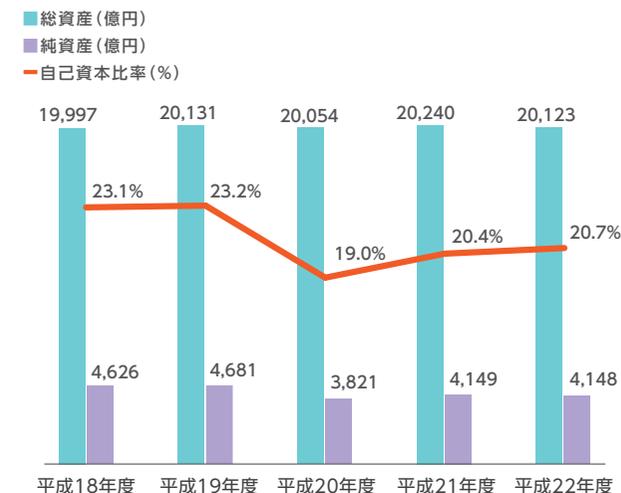
(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)	前連結会計年度 (平成23年3月31日)
資産の部		
固定資産	1,842,326	1,842,658
電気事業固定資産	1,143,896	1,178,492
その他の固定資産	66,616	64,920
固定資産仮勘定	334,237	301,676
核燃料	53,650	46,693
投資その他の資産	243,925	250,875
流動資産	186,292	169,727
資産合計	2,028,619	2,012,386
負債の部		
固定負債	1,312,116	1,319,146
流動負債	290,430	277,563
特別法上の引当金	887	777
負債合計	1,603,434	1,597,487
純資産の部		
株主資本	451,407	435,760
その他の包括利益累計額	△25,655	△19,997
少数株主持分	△567	△863
純資産合計	425,184	414,898
負債純資産合計	2,028,619	2,012,386

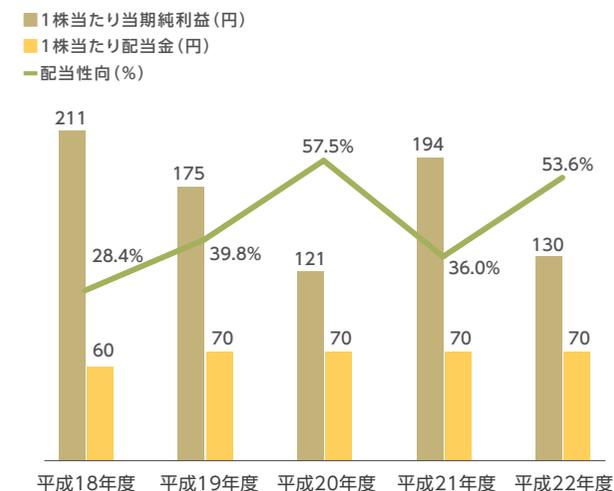
### 当期の配当について

- 平成23年10月31日開催の当社取締役会において、第60期中間配当の支払いについて次のとおり決議しました。  
中間配当：1株につき金35円  
効力発生日(支払開始日)：平成23年11月30日(水)
- また、通期の配当については以下のとおり予定しています。  
期末配当：1株につき金35円(予定)  
年間：1株につき金70円(予定)

## 総資産・純資産・自己資本比率



## 1株当たり当期純利益・1株当たり配当金・配当性向



# 会社概要・株式基本情報 (平成23年9月30日現在)

## 会社概要

商号	電源開発株式会社
コミュニケーションネーム	J-POWER
設立	昭和27年9月16日
従業員数	2,355名(個別) 7,015名(連結)
資本金	152,449百万円

## 役員

代表取締役会長	沢部 清
代表取締役社長	北村 雅良
代表取締役副社長	太田 信一郎 前田 泰生 坂梨 義彦 日野 稔
常務取締役	渡部 肇史
取締役	水沼 正剛 村松 清貴 竹股 邦治 田生 宏禎 永島 順次 梶谷 剛
常任監査役(常勤)	島田 寛治 藤原 隆
監査役(常勤)	砂道 紀人
監査役	大塚 陸毅 中西 清

(注) 取締役梶谷剛は、社外取締役です。  
監査役藤原隆、大塚陸毅および中西清は、社外監査役です。

## 株式の状況

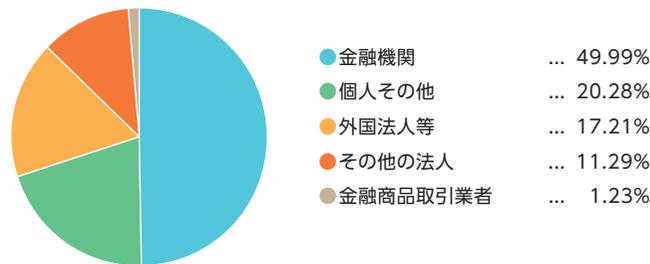
発行可能株式総数	660,000,000株
発行済株式の総数	166,569,600株
株主数	38,312名

## 大株主の状況 (上位10名)

株主名	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数の 割合(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	9,547	5.73
日本生命保険相互会社	9,120	5.48
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	8,341	5.01
株式会社みずほコーポレート銀行	7,465	4.48
株式会社三井住友銀行	4,295	2.58
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	3,993	2.40
J-POWER従業員持株会	3,793	2.28
株式会社三菱東京UFJ銀行	3,736	2.24
富国生命保険相互会社	2,750	1.65
大同生命保険株式会社	2,323	1.40

(注) 上記のほか、当社保有の自己株式16,516,610株があります。

## 所有者別株式分布状況



(注) 自己株式16,516,610株は、「個人その他」に含まれています。

## 株式メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当 毎年3月31日 中間配当 毎年9月30日 その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日。
上場金融商品取引所	東京証券取引所市場第一部
証券コード	9513
単元株式数	100株
株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人 事務取扱場所	住友信託銀行株式会社 証券代行部 [郵便物送付先] 〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 [電話照会先] ☎0120-176-417 [インターネットホームページURL] <a href="http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html">http://www.sumitomotrust.co.jp/ STA/retail/service/daiko/index.html</a>
公告方法	電子公告(当社ホームページに掲載 <a href="http://www.jpower.co.jp">http://www.jpower.co.jp</a> )。ただし、 事故その他やむを得ない事由によって 電子公告をすることができない場合は、 日本経済新聞に掲載します。

## 株式事務について

**【株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について】**  
証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出およびご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、上記の株主名簿管理人へご連絡ください。

**【配当金払渡し期間経過後の配当金の受取方法】**  
「配当金領収証」による配当金の郵便局又はゆうちょ銀行での払渡し期間経過後も、当社の株主名簿管理人である住友信託銀行の本店および国内各支店におきまして、配当金のお受取りの手続きをとることができますので、同領収証をご持参のうえお受取りください。なお、ご郵送の場合は、送金方法をご指定いただき、同領収証表面受領者印章欄にご押印のうえ、上記の株主名簿管理人宛にご送付ください。

## 当社IRサイトのご案内

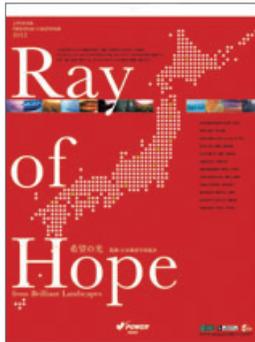
当社IRサイトでは、最新のニュースや開示情報などを定期的に更新しています。特に「個人投資家の皆様へ」のページには、業績の推移や今後の計画、発電所でのイベント情報など、さまざまな情報を掲載していますので、ぜひご覧ください。

[http://www.jpower.co.jp/annual\\_rep/ann03000.html](http://www.jpower.co.jp/annual_rep/ann03000.html)



## カレンダーのご送付について

本年6月に実施したアンケートにご回答いただいた株主様には、「J-POWERオリジナルカレンダー2012年版」をお送りいたします。発送は12月上旬を予定しております。



今回のカレンダーは「Ray of Hope ～希望の光～」と題し、当社の施設がある都道府県の自然風景写真12点で構成しています。日本風景写真協会の監修のもと、12名の写真家による写真を使用しています。

サイズ:縦605mm×横455mm



〒104-8165  
東京都中央区銀座六丁目15番1号  
TEL:03-3546-2211(代表)  
<http://www.jpower.co.jp>

## 株主様向け施設見学会のお知らせ

今回は「橘湾火力発電所」(徳島県阿南市)の施設見学会を開催いたします。ご希望の方は同封の返信用はがきにてお申し込みください。多くの皆様のご応募をお待ち申し上げます。



開催日  
平成24年  
2/15(水)  
2/16(木)



### 行程(日帰り)

実施日	コース	予定時間	集合・解散場所
平成24年2月15日(水)	① 舞子発・着コース	9:00～19:00頃	JR舞子駅周辺(神戸市)
	② 徳島発・着コース	10:00～17:00頃	JR徳島駅周辺(徳島市)
平成24年2月16日(木)	③ 舞子発・着コース	9:00～19:00頃	JR舞子駅周辺(神戸市)
	④ 徳島発・着コース	10:00～17:00頃	JR徳島駅周辺(徳島市)

(注) 集合・解散場所と発電所との間はバスにて移動いたします。交通事情により解散時刻が前後する場合がございます。

### 募集要項

見学場所	橘湾火力発電所(徳島県阿南市)
参加費	無料(ただし、集合・解散場所までの往復交通費は各自のご負担をお願いいたします)
募集対象	平成23年9月30日現在、当社株式を100株以上保有する方(同伴者は小学生以上の方1名様に限らせていただきます)
募集定員	各日とも40名(コース①②合わせて40名、コース③④合わせて40名)(応募者多数の場合、抽選とさせていただきます)
お申し込み	同封の申込ハガキにてお申し込みください
お問い合わせ	電源開発株式会社 総務部 株式グループ 施設見学会担当 TEL:03-3546-2211(代表)(受付時間9:00～17:30[土・日、祝祭日を除く]) E-Mail:kabushiki@jpower.co.jp
しめきり	平成23年12月20日(火)消印有効 当選者のみ郵送でご連絡(平成24年1月中旬までに詳細なご案内をお送りいたします。 <u>落選の場合はご連絡は差し上げません</u> )

(注1) ご見学時はバスの乗降や階段の昇降があり、発電所構内を1時間ほど歩きますので、あらかじめご了承ください。

(注2) ご応募いただいた際の個人情報、施設見学会の実施およびその他IR活動(投資家向け広報活動)のためにのみ使用し、他の目的には使用いたしません。



株主の皆様が読みやすい冊子にするため、この株主通信ではユニバーサルデザイン書体を使用しています。

